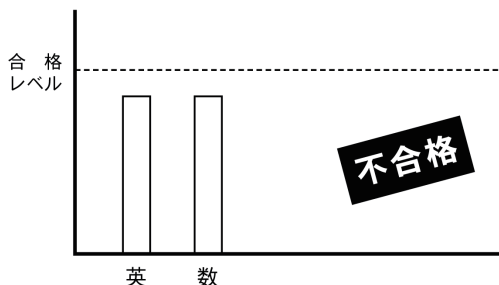


理論的に考えた場合（正確に思考した場合）、予備校は利

用しない方が多くの場合、慶應大学に合格しやすい

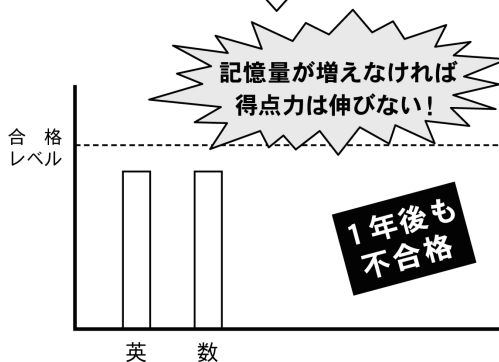
まずは次の図を見て欲しい。理解の時間を伸ばしても、点数は伸びないことを説明した図だ。

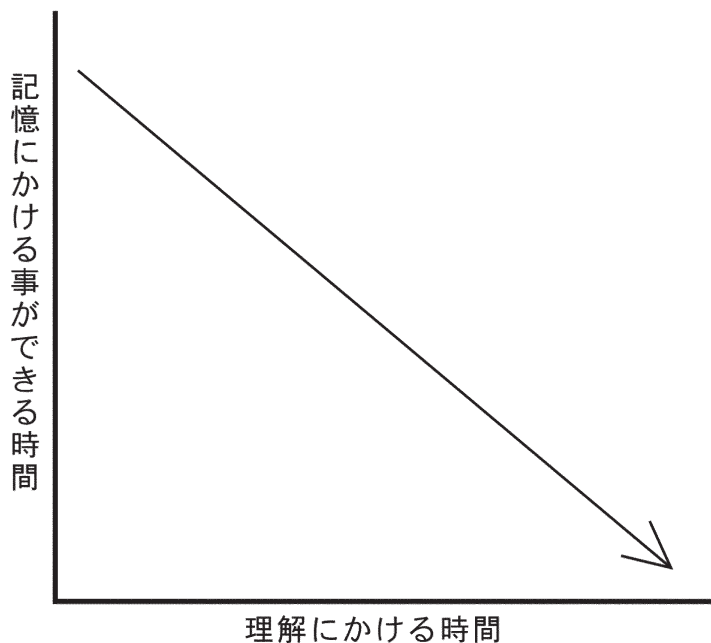
理解時間を増やしても合格できない



1年後…

理解の為に時間を
2000時間投入する。
(予備校に行って授業を受ける)





POINT

理解にかける時間が増えれば増えるほど
記憶作業にかける事ができる時間は減っていく。
(合格率は下がっていく)

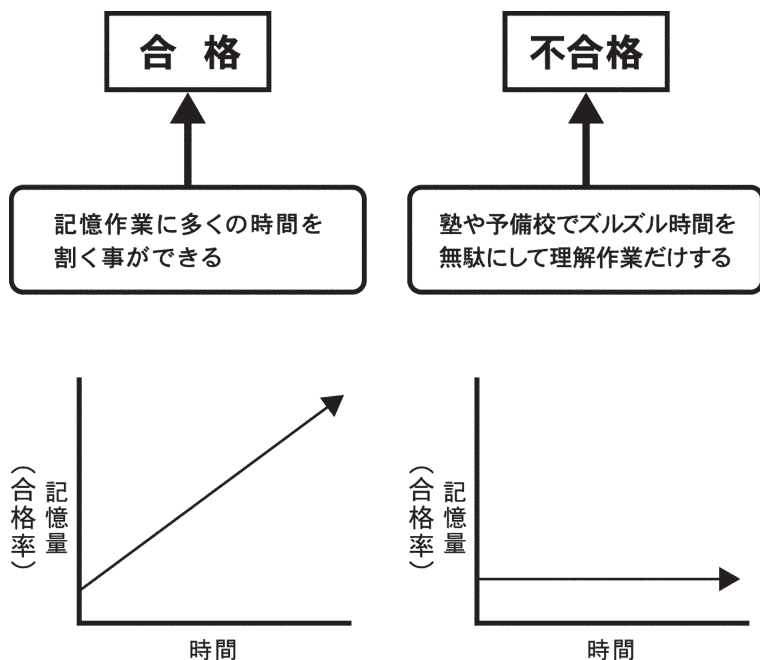
本書を読んでいる読者は少々面食らったかもしれないが、近年広まりつつある考え方が、予備校は利用しない方が大学に合格しやすいという考え方だ。実は私も概ね賛成である。予備校を批判するつもりはない。予備校にはいいところもたくさんある。勉強をひとりでも理解できない人は行つて教えてもらえばいい。要は使い方の方の判断基準がまずいということなのだ。

普通大学受験に失敗したら、予備校に行くのが当たり前と思われているが、そもそもなぜ予備校に行かなければならないのか？ というふうに考えたことがあるだろうか。

試験の点数は覚えた量で決まる（勉強法最強化プロジェクト参照）。たくさん覚えていれば東京大学の法学部も合格できる。基本的には試験は覚えた量が多いか少ないかで決まるという仕組みがある。やるべきことは出題頻度順に上から順番に覚えるということだ。詳しくは勉強法最強化プロジェクトという本を読んで欲しい。私も最初はそういう風に考えていなかったのだが、15歳くらいの時に、東大、京大、慶應、早稲田の文系、理系に全部合格したという人がおり、その人の本を手にとった時に知った。この人は東大に二度合格して、二度目は東大の医学部に合格。在学中に国家公務員試験の第1種に合格。予備校で全科目を教えることができるスーパーマルチ講師として、活躍したという伝説の東大生である。この人の書いた本にはショッキングな見出しがあり、試験はクイズだゲームだファミコンだ!! と書いてあった。ファミコンというのは、なじみのない言葉かもしれないが、今でいうプレイステーションのようなゲームのこと。試験は神経衰弱もどきの記憶ゲームではない! と、強烈な見出しがあった。

そうやって考えると、実は勉強というのは、いかにして効率よく試験に出ることを覚えこんでいくかのレースのようなものである。理論的に考えれば、理解にかける時間を可能な限り減らして、可能な限り記憶作業に費やす時間を増やしていかなければ合格しにくいことになる。予備校に行っている場合ではないのである。もちろん、数学を独学するのが辛いとか、どうしても理解できないことを教えてもらうのに、個別指導を利用するとか、そういうことは問題ない。そういう例外的なケース以外は独学の方が圧倒的に記憶効率がいい。これは理数系の科目も例外ではない。私の兄は、化学の先生が嫌い、化学の時間に旺文社の問題集をゴリゴリやって覚えていく作業をした結果、点数が激増。一気に90点以上の点数しか取らなくなった。それを知った先生が『おかしー！』と叫んだらしい。実際は少しもおかしくない。授業を聞くよりも、記憶作業を優先して、理解して覚えてのスピードを速めた方が、点数が上がるに決まっているのである。

このようなエピソードは他にもあり、カリスマ東大生として、私が運営するHPに出てくれているニヤロメというペンネームで活動している方は、高校を中退した。東大に合格するために、ゆっくりに勉強してられないので、高校を辞めたのである。その結果東大に合格。自宅でみっちり、モリモリ勉強すれば、移動時間もかからないし、1日に7時間、8時間余分に（多めに）時間を確保できる。年間に換算すると、2400時間くらいの開きが他の受験生とあるかもしれない。その結果が約1万項目くらいの記憶量の差になっていたはずだ。記憶量が多ければ点数は高いレベルで安定する。その結果が東大合格につながっている。



家で勉強しないから、1人では勉強できないから、という理由で塾に行かせても問題の解決にはならない。勉強時間ではなく記憶時間を増やす事が（だけが）問題の解決に繋がる。

これはもちろん慶應大学にも当てはまる。地歴の科目を受講するのに、予備校に行くのは、完全にどうかしていると、私は考えている。受験勉強以外の趣味の時間と割り切って予備校を利用するのではなく、意味がない。

以上が理論的に考える例の1つだが、もっと正確に知りたい人は、ディジシステムのHPの無料情報、成績と合格を決める最も重要なことか、目標達成論を本で読んで欲しい。記憶効率と、忘却率から、時間が経過した時にどれだけの記憶の差ができるのかを説明した文章を読むことが可能だ。

思考法を変える

この原稿を書いている時に、慶應クラスの生徒（私が主催する慶應大学絶対合格を目指した通信制のクラスのこと）から質問があったので、掲載しておこう。それでは、一体どうやれば慶應の小論文に対応できて、高得点が取れるのか？　いくつもポイントがあって教えきれないが、思考方法を変えることだ。知識で考えるのではなくて、映像で考える、自分の経験すべてにアクセスして思考する。そうしたら、本で読んだ知識とか授業で先生に教えてもらった知識では考えなくなる。より実態に即した形で現実を正確に分析できるようになるのである。

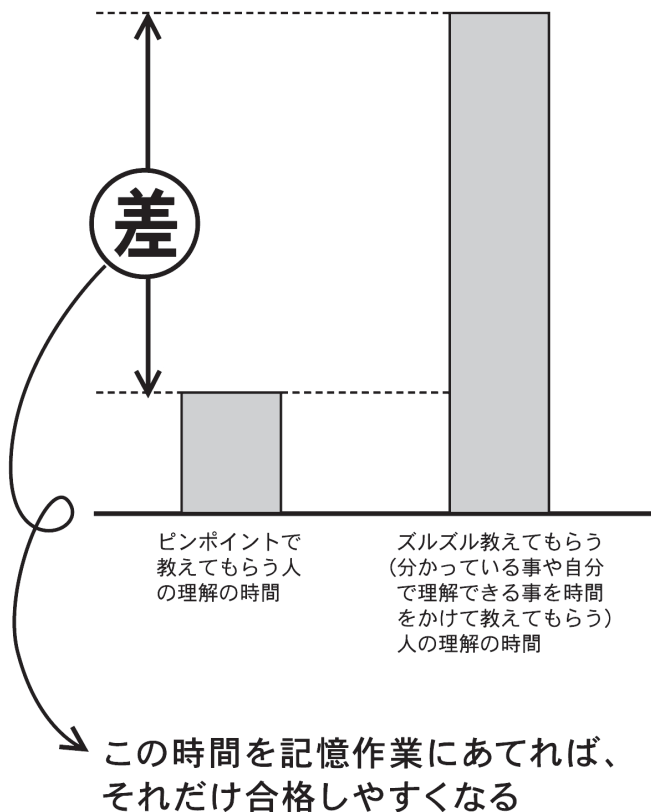
塾に通っても約80%は点数が上がらない？ 増えつつある

自習塾

あなたは今自習をさせる塾が増えているのをご存知だろうか？ 塾で授業をせずに自習をさせるのだ。なぜそんなことをさせるの？ と思うかもしれないが、授業をしても点数が上がらないためである。点数が上がらなければ生徒は塾を辞める。仕方がないので、授業時間を減らして自習時間として、分らない人は手を挙げて質問するというスタンスになっている。授業を受けても点数が上がらない理由はここまでで述べた。授業では記憶量が増えないからだ。増えるとしてもそのスピードがかなり遅い。そこで塾産業は、成績が上がらないと生徒が塾を辞めるので、いろいろと考えはじめた。その対策が、自習をさせるというもの。3時間の塾や予備校で半分は自習をさせて、先生に分からなければ質問できるというスタンスなど、いろいろなスタンスの塾がある。自習をすれば記憶をするので、点数が上がる。点数が上がると、塾のおかげと勘違いを始める。

申し訳ないが、これは勘違いである。うまくいくことによる勘違い。人間は失敗からしか学べない。うまくいくから勘違いしてしまったのだ。実際には、塾が指定している問題集をやったから成績が上がったのではなくて、記憶作業をしたから点数が上がったのである。記憶作業は、はつきりいってどの問題集でもいい。

数学は個別指導か家庭教師を使い！



現象と原理を分けて真実を見抜く目を

×を不合格として○を合格とした場合、次のような表記が可能だ。

慶應経済×慶應総合政策○

慶應法×慶應環境情報○

この現象を見て、慶應のSFCが経済や法よりも簡単だと教えている最大手予備校の講師がいるらしい。これは間違いだ。思考能力がないにも程がある。これらは単に『得意科目のカバー範囲』が合格不合格に現象面として現れているだけである。数学選択でSFCに合格できる子を私が教えて一年後に慶應経済に合格しないことなどほとんどありえないだろう。例えば、

慶應環境情報学部不合格 東京大学合格

だったら、慶應の環境情報の方が東京大学よりも難しいということになるのだろうか？ こんな現象は慶應の経済以上にかんりの確率で起こることが予想される。東京大学に合格する生徒が慶應の経済に落ちることはあまり考えられないが東京大学に合格する生徒が慶應のSFCに落ちることはかなりの確率で考えられる。小論文の配点が高いためだ。東大とSFCは評価基準が違うので、トライアスロンの東大と、短距離走のSFCのように、異なる試験になっている。英語、数学、理

系科目の偏差値がいくら高くても現代文の点数が高くて小論文は点数が低いことは多い、そしてそういう研究結果もある。データにも現れている通りだ。東大と慶應の二つの大学は人の評価基準が違うのである。

相関関係と因果関係の違いを認識して併願の合格可能性を 引き上げよう

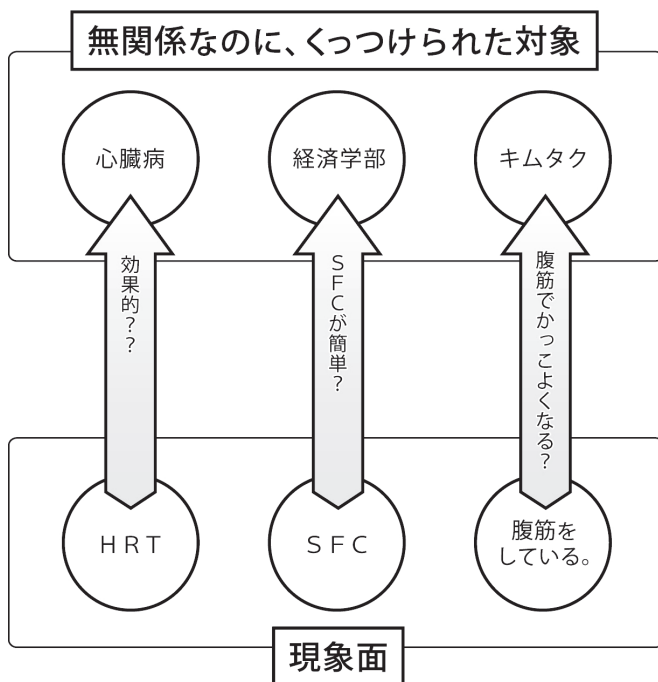
簿記3級不合格 東京大学合格

だったら、簿記3級の方が、東京大学よりも難しいということになるのか？ もうこれ以上はばからしいのでやらないが、そんなバカなことはない。

これは相関関係と因果関係の違いである。現象として現れていることから安易に仮説を立てて、推測してつじつまを合わせ、そこに因果関係があると早とちりをする状態が、相関関係と因果関係の混同である。

《相関は因果を含有しないの事例》

広く研究された例として、ホルモン補充療法（HRT）を行っている女性での冠動脈性心臓病（CHD）の発生率が低いことから、HRTがCHD予防に効果があるという提案がなされたことがある。しかし対照試験を行ってみると、HRTによってCHDのリスクが若干ではあるが明らかに有意な増



加を示した。データを再検討してみると、HRTを受けていた女性は上流階級の婦人が多く、ダイエットやエクササイズをよく行っていたことがわかった。つまり、HRTを受けることとCHD発症率が低いことは共通の原因の結果であり、両者に提案されたような原因と結果の関係は存在しない。

「ウィキペディアより引用」

合格と不合格の表面的な部分を見るのは、キムタクは腹筋をしている。松本潤も腹筋をしている。そうだし、モテるには、腹筋をすればいい！というくらいアホな判断である。

現象と原理・仕組みは別である。現象からどういう仮説を導くかがある。あなたの判断能力に関わっており、こ

いう思考方法ができるかどうかが慶應義塾に合格できるかどうかを決める。

慶應経済×慶應総合政策○という現象は、偏差値が低い医学部×慶應法○という現象に似ている（得意科目のカバー範囲と合格不合格現象）。原理的には同じ仕組みで慶應経済×慶應総合政策○という現象が起こっているのである。逆に言えば、SFCの小論文で合格ラインに達したことのほうが総合的な困難性では（慶應合格の可能性という観点から）評価に値する。小論文の力が担保されていれば、文系パーフェクト合格を果たすことができる可能性がその人物には十分にあり、地歴の困難性は記憶の困難性のため、3ヶ月で克服できずとも、6ヶ月で克服できないということはほとんど考えられない。覚えるだけでいい。もう一度確認しよう。

慶應SFC合格 慶應経済不合格という現象は、

■小論文の実力が慶應合格ライン○

■英語の実力が慶應合格ライン○

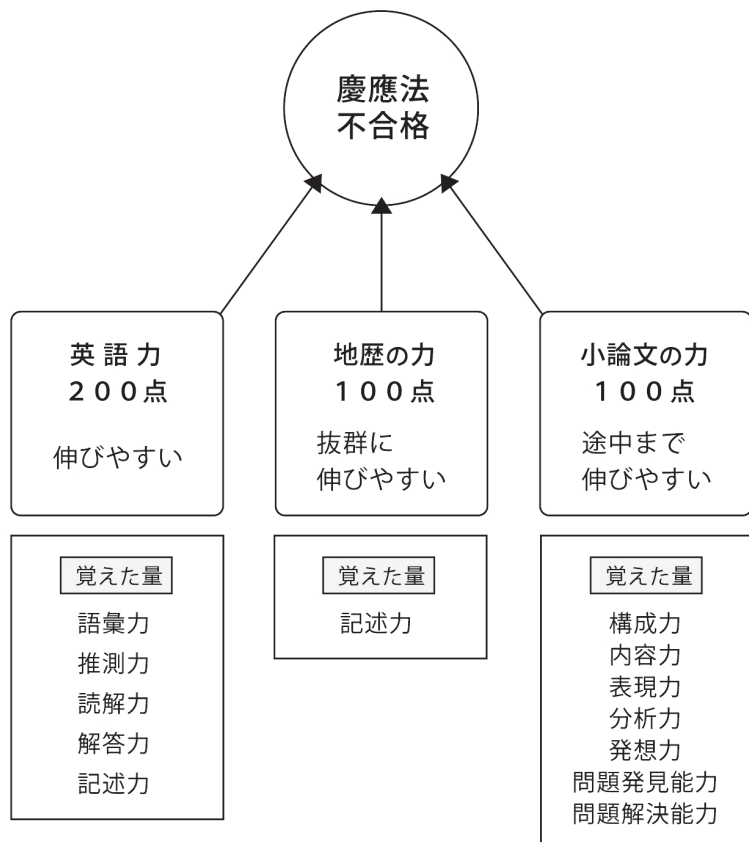
■地歴・数学の実力が慶應合格ライン×（3〜4ヶ月でゼロから合格ラインに乗せることができる）

原理的に考えて、右記のようになっていいる可能性が高い。慶應SFCはTOEICで900点以上を高校生で取るような人間や英検1級保有者も受験する。学部別の先入観と現象面の相関関係から安易に難易を考えようとするのは極めて愚かな思考といわざるをえない。

(単語は完璧に覚えているのに、英語で7割取ることができない) ↓だから私は、暗記は得意だが読解力がないから慶應大学に合格できないのだという仮説を持っている子と話をしたことがあるが、よくよく話を聞いてみると、単語を丸暗記しており、理想的な覚え方をしていないから読めないのではないかというケースがあった。これも現象と仕組みを分けて考えておらず1つの根拠から結論を導く思考方法を取っていることが間違った判断につながっている。通常何かの現象が生まれる際に、1つの理由からそれが起こることはほとんどない。常に複数の理由があり、いくつかの変数の総合的な作用の結果1つの現象が生まれているのである。例えば慶應の法学部に不合格になっているのであれば、何が主要原因となつて不合格という結果が導かれたのかをまずは正確に分析する必要がある。先述の大手予備校講師のように考えることができず(小論文を教えていたらしいが)、1つの現象が起こる背景に思考が至らないようにならないようにしよう。

私が教えていた子で慶應の法学部に補欠合格だった子がいたが、他の法学部受験生が、必死に法学部を目指していたのに、彼はたった1冊日本史の問題集を記憶しているだけだった。それで慶應法に補欠合格である。もしも遊び半分ではなく、ミッチリあと2冊やっていれば彼は慶應法に合格できたろう。彼は慶應総合政策に合格している。英語選択で総合政策に合格できる子の多くは3冊日本史の問題集を記憶するだけで法学部は合格するだろう。英語と堅めの内容の小論文がダントツのグループが慶應の総合政策学部合格している。逆に日本史と英語がダントツだけで小論文が平均的な点数の人は、1年間ミッチリ小論文をやったからといって必ずしもSFCには合格できない。小論文は科目の特性上、一気に点数を教え方次第で伸ばすことができるが、そこから先は時

物理的に点数から逆算して仕組みを
分析して思考せよ！ボトルネックを
解消すれば問題は解決できる。



間がかかる科目だからだ（院卒の事例では8年間勉強でも突破できていない）。地歴のように勉強時間が裏切られない性質の科目ではない。

たくさん覚えることの困難性

たくさん覚えることは、正しい方法を知っていれば腰が砕けるほど簡単である。本書で紹介した方法と、『勉強法最強化プロジェクト』、『自動記憶勉強法』（エール出版社）を実践して欲しい。

合格する参考書、問題集はどれですか？ の間違い

どの問題集をすれば、成績が上がるでしょうか？ という質問は実に多い。しかしこの質問は基本的に間違っていると言える。どの問題集がいいのかなど、今の時代は問題ではないのだ。その理由は、どの問題集も基本的にはデータベースに打ち込んだ問題から、頻出分野や頻出事項を確率から抽出しているからだ。それらに予備校の先生の名前とか、有名出版社の名前がついているだけなのである。Z会の『一問一答』を使ってもいいし、東進の『一問一答』を使ってもいい。そんなことで悩むだけ時間の無駄だ。

ここでも重要なのは、上、中、下のどのレベルなのか？ ということ。いつまでも下のものをやる必要はないし、中のものばかりやる必要もない。いい加減な学習メソッドが売りの専用問題集も

売り出されていたりするが、あんなのは論外もいいところである。Z会、山川出版、東進、旺文社などの編集に力がある出版社と老舗を選ぼう。

何をやるかよりも、どうやるかの方が100倍重要な理由

試験は記憶量で決まる。合格も不合格も基本的には、記憶量で決まる。実態をイメージしてみよう。試験に出る事項を覚えることを、左の筒に水を入れるようなものだと考えてみる。



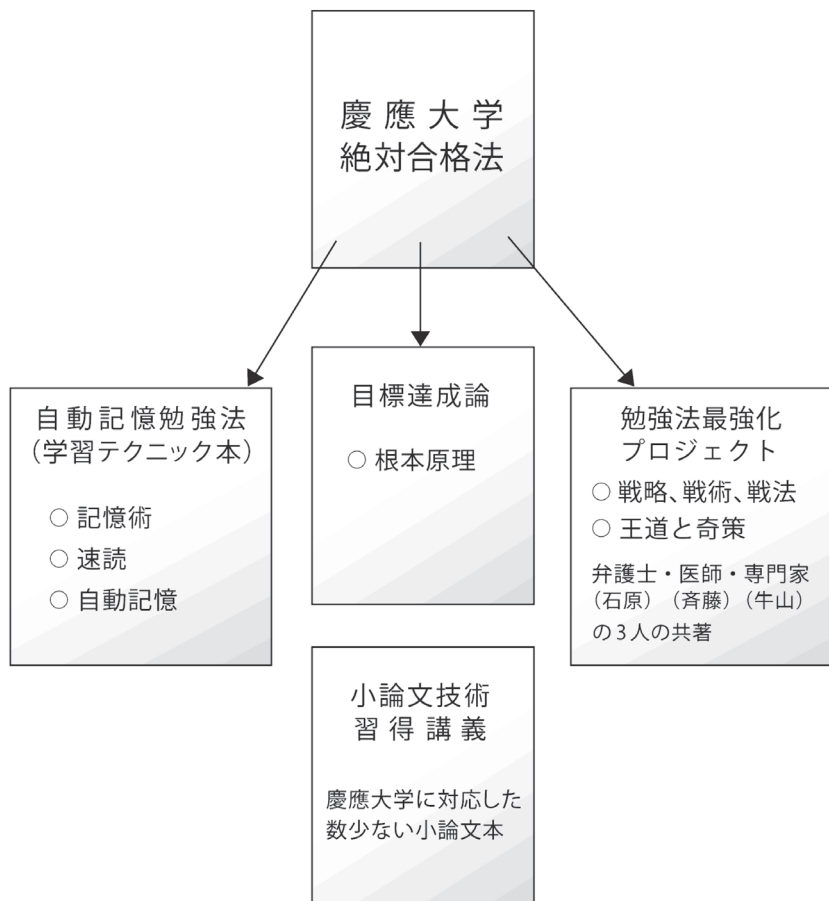
あなたはどのように、水を入れていくだろうか？ 試験に何が出るだろうか？ この問題集で力がつくだろうか？ それともこれで力がつくだろうか？ などと迷っているヒマはない。さっさと最優先の記憶事項から順番にガンガン覚えていくだけだ。有名な問題集や単語帳が2冊あるなら両

方やればいいだけの話なのである。このチェック作業は大体6〜8時間。これが私の経験だ。つまりは1冊目を完璧にしていたら、他のものをやっても半分は分かる。分かったものは一生見ない。

何をやるのが問題ではない。両方とも重要ならば、両方ともやるべきなのである。数学に関しては問題数が少ないので、何をやるかが重要になることもあるが、英語や地歴は完全にそんなものはない。あれもこれも覚えた方が断然合格しやすい。前頁の筒に水を入れていくゲームだとしたら、重要なのはいかに多くの水を筒に入れるかだ。その方法こそが重要になってくる。そして忘れにくい方法・アプローチが重要なのである。

本書の構成について

本書は、私の各著作群と連携している。私は慶應大学の合格方法をあなたに詳しく話して、私が知っていることを全部話した場合、あなたを絶対に慶應大学に合格させてあげる自信がある。しかし、3分話して終わりというわけにはいかない。小論文を話せば20時間、記憶について話せば20時間、原理について話せば5時間と、時間がかかるのは当たり前だ。そこで本書では左に記した著作群で、既に話したことはなるべく話さないようにしている。その代わり、全部連携していると思っただと心得て欲しい。この慶應大学絶対合格法は、1冊で終わりではなく、他の4冊を合わせて、5冊セット



絶対に買って読まなければならない本

- 『勉強法最強化プロジェクト』（エール出版社）……勉強法に悩む必要なし！本書で最強化できる
 - 『目標達成論』（エール出版社）……受験に一人で立ち向かうような愚を回避し、不合格を回避できる
 - 『小論文技術習得講義』（エール出版社）……慶應文系受験生（小論文選択者）は必読。これ以外に慶應小論文に完全対応した小論文本はない。
 - 『自動記憶勉強法』（エール出版社）……（勉強のやる気が出ない人だけでもよい）
 - 『これからの正義の話をしよう』（早川書房）……法学部（総合政策学部）受験生
 - 『世界を不幸にしたグローバリズム』（徳間書店）……総合政策学部（法学部）受験生
 - 『日本でいちばん社員満足度が高い会社の非常識な働き方』（ソフトバンククリエイティブ）……環境情報受験生 その他IT、先端技術、未来像を描いた技術系書籍を乱読しましょう。
 - 『パラドックス大全』（青土社）……商学部受験生
- 買ってはならない本
- いわゆる小論文のネタ系本……どの出版社のどの本ということを書けない。もしも買ったとしたら、リスク回避のために買おう。ネタ系の本を読んで知識を入れて、そのまま吐き出そうとしているライバル受験生のような、低いレベルの小論文を書かないために読むのならいい。
- 大げさな売り文句の本……いい加減な学習ノウハウ本と、異常な売り文句の本を私はオススメしない。1日、2日と無駄に時間が過ぎていくので、『買わない、読まない、惑わされない』ことが大切だ。エセ脳科学、インチキ学習テクニックが溢れていることは、心に留めておきたい。これからもどんどん増えるだろう。

読んでもいい本

時事問題厳選60……絶対に中の文章を覚えないうこと。3回通読して、ポイントに下線を引いて終わりにするなら読んでもOK。本番ではあくまでも自分の頭で考えよう。そうしなければ点数が下がる。

勉強法は骨太に（獅子ガリスやウサギを気にするな）

勉強法で迷う必要はない。『勉強法最強化プロジェクト』を読んだら、戦略レベル、戦術レベル、戦法レベルの全てで学習は最適化され始めている。この方法でいいのかな？ などと迷い始めると、勉強が手につかなくなる（あっちの学習機関の主張とコッチとインターネットと……うわああああああ、わけがわかんねえ）とパニックになっている子が時々いる。シンプルに考えよう。影響力は、重要度に比例する。

戦略レベル……影響大（何をいつやるか・何が問題なのかの構造）

戦術レベル……影響中（どうやるか）

戦法レベル……影響小（どういうテクニックを使うか）

『目標達成論』と、その姉妹本である『勉強法最強化プロジェクト』を読めば最大のフレームワークは完全に押さえているのでビル必要はない。小論文の講師として、判断の質を上げるアドバイザーをしよう。論理的に考える際に重要なのは、不確かなものではなく、確かなものを足がかりに思考することだ。間違いないものを指針にすればあなたの学習も間違いないものになる。私が本に書きもしないレベルの勉強法の内容は、受験では気にしなくてもいい。専門家とは、あなたの代

わりに情報を集めて研究している人間のことだ。専門家の本を手にとっているあなたがリスやウサギ（勉強の小技）、受験お得情報や、難関校受験お得情報を気にする必要はないのである。何度も言うが、物事を表面的に見ても、問題は解決しない。結果は記憶量と、解答力で決まる。○○学部は○○がでやすいとかチンケな情報は、あなたの問題を解決しない。特に慶應受験に関しては本書に掲載していないものは気にするに値しないものだと思わなくていい。最初に書いたように、書籍ですら嘘が多い。ガンが治ると嘘の宣伝をして数億円儲けて警察に逮捕されるようなことが本では起こりにくいからだ。私もある出版社（エールさんではない）の方と酒を飲んで話をしたが、そういういい加減で、嘘について本を売りまくる悪い業者がいるから、真剣に戦っていかないといけないんだと、彼は力説していた。

物理法則に基づいた学習指針は、獅子（ライオン）の咆哮のようなものである。あなたの心にある恐れや不安、嘘の宣伝に惑わされる心も、甘い誘惑を耳元でささやかれて傾きそうになる心もすべて吹き飛ばし、百獣の王のマインドを精神に宿すごときものだ。

そこには、不安も恐れも、誘惑もない、絶対合格の常勝マインドがあるのみである。

「方法はない」

時々『牛山式は……』というように、勉強関連の問題を『方法単位』で捉えている人がいるが、私は牛山式勉強法などというものを提唱しているつもりは少しもない。○○式というのは、理論的な背景が脆弱な場合の呼称であり、根拠薄弱の単なる仮説であるとか、本人の思い込みの独りよが

りな『方法』のことである。こういう方法単位で全体を捉えない思考方法というのは、問題解決の力が弱い。あくまでも仕組みと原理・原則から全体の構造を捉え、その中でボトルネックになっているものを個人個人が個別にピンポイントで解決するからこそ、問題を解決することができるのである。全体構造を分析した上での個々の問題についての研究と、対策を目指すことで目標達成の確率が最大化されるのであって、新しい『方法』をそこに追加しても結果は足し算のようににならない。私たちが学習をする時には、常に何かを選択しなければならぬからだ。選択とは捨てることである。従ってどんなに方法を追加して学んでも私たちの得る結果も足し算にはならず、むしろ多くの場合、引き算になり、無残に学習効果を奪われることが多いということは肝に銘じておかなければならない。他の勉強本は細かな情報収集を目的として読もう。

合格の読書5ステップ（本の読み方）

まずは次の5つのステップをふんで欲しい。勉強法最強化プロジェクトは、勉強法マニアや勉強法ジプシーの状態からあなたを救う効果がある。東京大学法学部を卒業して弁護士になっている石原先生と、国立大学を卒業して、医師になっている斉藤先生と私の3人で書いた本だ。本書は合格するまで一度も欠かさず毎日読んで欲しい。できれば最初のページを声に出して読み上げる。1日に3回でもいい。他の勉強本は、読んでみていいと思ったところに線を引き、次からはそこだけ読もう。

ステップ1

(本書)『慶應大学絶対合格法』を読む

重要な部分に線を引いて繰り返し読む

最初の5ページは、合格するまで毎日朝・夕に見ること

※慶應大学合格戦略が分かる

ステップ2

『勉強法最強化プロジェクト』を軽く読む

(勉強方法をどうやれば最大の効果が得られるのかが分かります)

※勉強の王道と試験の仕組み、最適な勉強法が分かる

ステップ3

『なぜ人は情報を集めて失敗するのか？目標達成論』(エール出版社)を読む。腑に落ちたら半年で合計3回以上読み、線を引いたところを、勉強の休憩時間にでも何度も読んでみて欲しい

※目標達成の仕組みが分かる

ステップ4

『小論文技術習得講義』を繰り返し3回～5回読む

※慶應大学に対応した小論文が分かる

ステップ5

『自動記憶勉強法』を軽く読む

※学習テクニックが分かる

最初に一気に読んでもいいが、勉強に疲れた時や合間に読んで欲しい。少しでも勉強を進めることが大切だ

右の5冊を読めば、あなたの慶應合格確率が高まる

受験生と話をしていると、必要な前提知識（他の勉強法の本では触れられていないもの）が驚くほど少ないことに驚かされる。それで、いちいち電話でサポートをする時に、話をするのだが、毎回同じことを一から説明しなければならない。非効率のだなとよく感じていた。なぜ右の本を読む必要があるのか？ その理由は、真実に近いような情報が少なすぎるからである。例えば小論文と言えば〇〇が有名というように、すぐにあなたの頭に思い浮かんだ人がいるかもしれないが、今受験業界で幅をきかせている小論文の書き方は間違いだらけなのである。では何を読めばいいのか？ 手前味噌だが『小論文技術習得講義』を読めばいいと言うほかない。事実そう感じているからである。例えば、速読でオススめの会社やサービスは？ と聞かれたら、私が教えているような速読以外でも、フォトリディングなどをオススめすることができる。オススめできるものがあればお勧めするが、本当に今この本を執筆している段階では、いいものが存在しない。

唯一『自動記憶勉強法』だけは、読んでも読まなくてもいいが、読めば地歴の勉強時間が約半分になるかもしれない。記憶のテクニクを解説しているためである。使いこなすことができれば暗記科目は少しも怖くなくなる。時間を突っ詰めばいくらでも記憶できる。

～間違いの反対は正しいではない。牛山は正しい教えをしているのではない～

私は神様じゃあるまいし、正しい指導なんてしていない。そこまでおこがましくはない。間違ったことをやるなど言っているのである。特定の事実に対して何が正しいのかという事実の特定は世

界中の教育学や心理学の諸先生方が日々研究されている。私自身もその研究に携わる人間のはしくれである。間違いの対義語は正しいではない。言葉遊びの上ではそうかもしれないが、現実はもっと複雑だ。小論文はどのように書くべきか、勉強はどうやっていくのか？ というのは、事実の特定ではない。研究対象の範囲としては不適切に広すぎる。ほとんど、専門家、プロフェッショナルの活動の範囲である。正しい経営を教えることができるコンサルタントがいないように、正しい勉強法だとか、正しい小論文を教えることができる人は存在しない。特に小論文は問題が変われば書き方も変えなければならない。正しいバットの振り方を教えることができる野球選手もいなければ、正しいドリブルを教えることができるバスケの選手も存在しない。しかし間違いは分かる。『もつと脇をしめてバットを握れ』とか『もつと腰を落としてボールをバウンドさせろ』という具合にある。

理由を知りたい場合は、私のそれぞれの本を読んで欲しい。その上で、さらに質問がある場合は電話でサポートを受けよう。書籍というのは、論文ではない。この文献の〇ページに〇〇という記述があるとか、いちいち私が読んだ何千冊という書籍について言及できない。なぜあなたは問題解決できるのですか？ と問われたら、問題解決のアプローチを行って、そのための総合的な活動を長年してきているからとしか答えようがない。

私が他の学習コンサルタントと決定的に違う点は全ての事象を論考して問題解決のアプローチで最適化を計っている点である。それに対して他の学習指導というのは、一般的に私はハーバードの〇〇を卒業したので何も疑問に思わずに私が思うとおりにやりなさい。私がそうやってうまくいったんだから、というものである。私はこれとは対照的である。

小論文でござう抜きできるのは、海外の難関大学と同じ。
暗記マシーンを望んでいないのが慶應義塾

判定	合格判定	本人成績	英語
部・学科	総合政策	A 80%	312/400 67.8

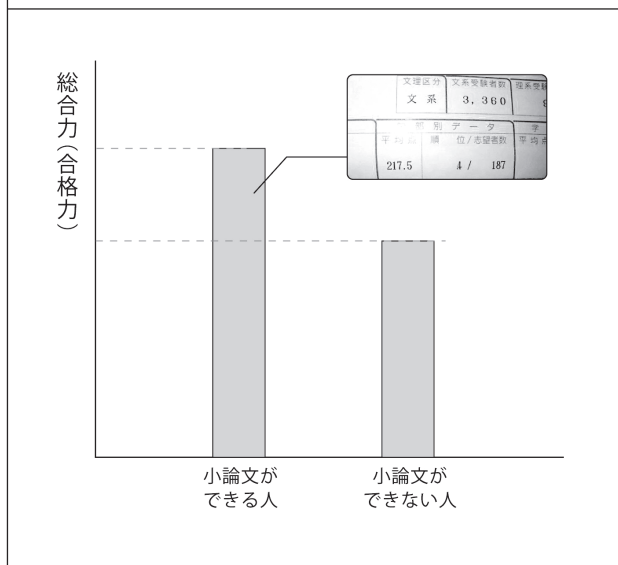
成績					
成績表のみ見た⑨参照					
目	(満点)	得点	偏差値	平均点	順位/受験者数
③	(100)	81	59.9	67.9	22 / 159
	(100)		67.9	44.4	3 / 189
成績表のみ見た⑩参照					
目	出題内容	得点/満点	平均点	出題内容	得点
I	長文読解問題	45/ 50	34.7 (マーク)	II 長文読解問題	36
I	資料読解問題	10/ 20	8.4	II 資料読解問題	

上の写真は全国で3位になったもののだが、よく見て欲しい。英語の成績は22位である。22位でも十分優秀だが、実はこの話にはオチがある。

慶應に合格したかったら小論文でダントツになれ！

全体の構造を分析して各種理論や諸説を総合的に厳しく検討してから、理論的に整合性が取れた提案を行う。極めて学際的な問題解決の提案をしている。その結果が、全国模試10位以内続出となり、試験の種類を問わずに合格者が続出する成果につながっているのである。

慶應(法)(文)(SFC)は小論文で逆転できる



英語の成績は22位だが、上の写真のように、総合順位では、4位である。22位から4位へ。これが慶應的な知性の評価方法だ。つまり、あなたが法学部受験者であっても、小論文が書ける人に簡単にごほうびにされるのが、慶應大学だということ。小論文をなめていたら簡単に落ちてしまう。総合で4位になったこの子も弊社で小論文の指導を受けるまでは小論文の点数が伸び悩んでいた。しかし、弊社で授業を受けてからここまで点数が伸びたのである。

私は慶應大学合格請負人である。正確には技術習得アドバイザーとして、技術習得を専門にした珍しい仕事をしていく。書く技術を引き上げたり、英語の技術を引き上げたり、記憶の技術を引き上げたり、読む技術をマスターさせるのは、私の専門分野であり、最も得意とするところなのである。

圧倒的な記憶量がある状態の力が必要

英語も数学も地歴も、物理も化学も例外ではない。記憶すれば点数は確保できる。そのレベルが高いだけ。

解答力が必要

記述力や選択肢を選ぶ力。
正解の選択肢を選ぶ力や、論述試験で評価される力。

小論文の力が必要

小論文の構成力、内容力、表現力、発想力、分析力、問題発見能力、問題解決能力、プレゼンテーション能力など。慶應大学特有の評価基準や人材選出法があることに注意。

この3点を攻略できれば合格、できなければ不合格。

『●●●を一冊読んでおけば合格するよ』などの根拠のないアドバイスの注意。自分一人の体験に基づく適当なアドバイスは溢れている。誘惑されそうになったら、前のページの配点表を見ることが。合格者の共通点を拾っても、本当に有益な対策は分からない。どうして成功したサンプルだから対策が分かるのだろ

うか。不合格になった多くの人と比べることで、結果を出すためのポイントが明確に分かるのである。勘のいいあなたならもう気づいていると思うが、●●するだけでいいなどの、小論文本は不合格者が一番買っている本である。たまに合格者も買っている。不合格になる人間は最低のラインを気にする。なるべく勉強せずにほとんど裏口入学のように合格するにはどうしたらいいかを考えている。

この本が出版されたことで恐らくは、慶應義塾の受験生の母集団のレベルは上がるだろう。地方の国立大学の優秀な生徒が受験しまくるようになったり、私が提唱する6アタックストラテジーで、ゴリゴリに慶應対策をした、慶應義塾が望んでいるタイプの人材が押し寄せる。この本が出版される前の情報は、この本の出版後にはあまり役立たないと思うくらいでもいい。

第2章

よくある失敗例と勘違い Misunderstanding and failure cases

慶應大学合格請負人からのメッセージ

絶対合格レベルとギリギリ合格レベルの違いに注意

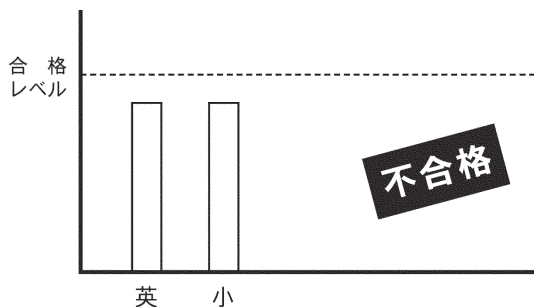
慶應大学はこういう風にすれば合格できる！ というアドバイスはたくさんある。こういうアドバイスを聞くとときに一つ重要なポイントがある。そのアドバイスがラッキー合格なのか、実力での合格なのか、絶対的なレベルでの合格なのか、ギリギリの合格なのかという点だ。絶対合格レベルというのは、圧倒的に安全に合格するレベルのこと。補欠合格や、ギリギリとは違う。何回受験しても合格できるレベルが絶対合格だ。私も慶應を受験した時は、ほぼ満点でダブル合格だった。本書ではラッキーで合格できる方法は解説しない。あくまでも絶対に合格できるレベルにするにはどうしたらいいのか？ という点から執筆している。合格率95%の実力と、合格率50%の実力は存在する。絶対合格が難しいのは慶應の環境情報だ。この学部は小論文がめちゃくちゃなので、絶対に合格するというのは難しい。しかし逆にラッキー合格者も恐らくだが比較的存在する学部だ。合格率の計算方法は数学の確率の計算方法を使う。

合格するにはどうすればいいのか？

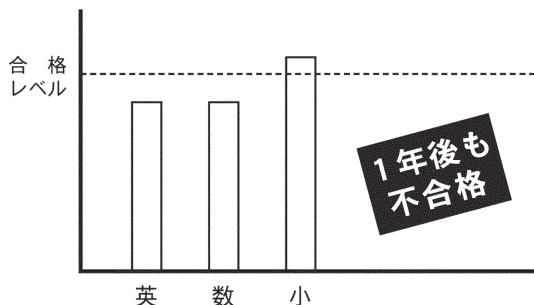
覚えればいい。そして小論文の点数が上位層になればいい

合格するにはどうしたらいいのだろうか？ 一言で言えば、覚えれば良いということになる。あなたが覚えたレベルが絶対合格レベルを上回れば合格で下回れば不合格になる。実はそれくらいに

合格力を越えるゲームが受験



1年後…



併願数を増やすだけでは合格率は上がらない。
合格レベルにまで引き上げることで合格率は
上がる。

シンブルなことなのだ。もう少し正確に言えば、試験の点数は記憶量＋解答力で決まる。解答力を鍛えることは重要だ。例えば小論文はその典型である。だから受験勉強の初期段階では徹底して覚えこみをして、後半で、解答力を鍛える。詳しくは科目別の勉強法のところで解説しよう。

どうやれば力がつくかどうかを心配する必要は

少しもない

一体どのように勉強すれば力がつくのだろうか？ あなたはこのことを心配しているかもしれない。そして、本書を読んでも結局はその通りにしないとか、いろいろ情報収集をして、オリジナルな勉強方法を作ろうとか、考えているかもしれない。典型的な失敗のパターンは2つある。

◇失敗パターン1 自分オリジナルな勉強方法を確立しようとする事

◇失敗パターン2 良くない指導者に教えてもらうこと

この話題には正直いつて触れたくない。話したくない話題だ。しかし、書くだけで大体20%の人は救われるので、書いておこう。残りの80%は変わらずに失敗していく。これは経験からデータからも分かっている。

まず失敗パターン1から話そう。自分のオリジナルな勉強方法を確立しようとする人がたまにいます。こういうアプローチは絶対にしないで欲しい。日本の伝統芸能を学ぶ際に、有名な言葉がある。守破離という言葉だ。守破離という3つの段階で人は成長して新しい文化を作り上げていくべきだという考え方である。

守(シュ)……先人の教えを守る(数年間くらいは、教えられた通りに)

破(ハ)……先人の教えを破る(新しい領域へ)

離(リ)……先人の教えを離れる(自分のオリジナルな勉強法を試みる)

こういう3つの過程を経るからこそ、自分オリジナルな分野を切り開いたり、既存の芸術の上に、さらに自分が加えた芸術性なり、価値を高める工夫を加えることができるという考え方だ。

もうあなたも気づいていると思うが、このような考えは全く正しい。注目すべきは、自分のオリジナルなものを加えるのは、せいぜい数年間は修行してからにしろという部分。自分の経験や体験を豊富なデータベースとして、そこから有効な方法論を確立するからより高度なものができるわけだ。

ところが勉強ということになると、自分は勉強のプロなんだという意識を持っている受験生がいるのには、少なからず驚かされる。たいていは次の3つの類型の中のどれかである。

- 1、超名門校出身である
- 2、志望校の世間評価が高い(東大法学部など)
- 3、模試で成績が良かった

要するには、自己拡大が起こっているわけだ。鶏が先で卵が後なのか、その反対なのかは分からないが、志望校や学部の間評価が高い人は、こういう傾向がある。逆だから志望学部がそうになっているのかは、ハッキリいつてどうでもいいことである。問題は前の3点は、目を曇らせるということ。判断能力を著しく下げる。

東大に行っても変わらない人も多いが中には完全に分かることが超エリートで天上人のように天才で、下界の馬鹿な愚民とはレベルも格も違うと思う人が一定の割合で出てくる。こうなると完全に病気だ。他のいかなる病気よりもみじめで愚かで情けない病気である。裸の王様だ。この状態になった人は、自分よりもキャリアが高いと感じた人には平伏し、恐れをなし、その人が言うことが正しいと思う。東大の理科1類なら、医学部には負けて、ハーバードやケンブリッジが出てきたら、大先生の言うこと、間違いないと思い、人が何かを話す前に、その人の経歴を見て、その人の経歴が自分が考える世間評価基準で（たいていは偏差値である）、下なら下等な脳だと思い、参考にする余地なしと判断を加え、何もかも割り引いて考え、自分の考えが正しく、他の人の言うことを馬鹿だと感じ始める。極めて深刻な病気なのがお分かりいただけるだろうか？

失敗パターン1 自分オリジナルな勉強方法を確立しようとする

そもそもその分野で10年以上やってきた人に、数冊勉強の本を読んでいる人が、判断能力で勝てることはあまりない。誰かに頼りたいのは、分かるが昨日まで高校生だった大学生にアドバイスを求めるのもかなり危ない（吉田さんは、さんざん牛山と打ち合わせをして、先輩としてのスタンス

からみんなを助けるために書いてくれた。牛山が保証する優秀な学生なので特別だと思って欲しい。その証拠に同じ大学の学生でも、勉強はこうやるべきという主張はかなりブレがある。十人十色だ。これに対して、専門家の意見はそこまでぶれることはない。彼らは真実を知っているからである。例えば英語の実力をつける勉強方法を詳しく研究している人の意見など、細かい諸理論に関しては違いはあっても、大幹の部分では、大きな違いはない。大学生のアドバイスとは対照的である。

星のことは占星術師に聞け

という格言は、素人に聞くなという戒めである。ところであなたは、なぜ人は情報を集めて失敗するのか知っているだろうか？ ちょっと考えてみよう。

先ほどの質問は難しい質問で、東大を卒業しているからといって、即答できる人はいなかった。あなたも自分の周りの大先生に聞いてみて欲しい。少し首をかしげて答えに困る人がほとんどだろう。

この質問に0・5秒で答えた人間がいる。

中卒なのに、資産数千億というインドネシアの大富豪だ。彼には学歴はない。しかし、極めて頭のいい男だ。裸一貫から、大富豪まで上り詰めた、ちなみに、元暴走族の総長で、大阪の1800人くらいの暴走族のリーダーをしていたというから、ハンパな偏差値ではない。偏差値で言うと、

大学の偉い先生を呼んで、説教したり、経営学の先生に『生徒に教えずに自分でビジネスしたらええのに』などと言ってみたりと、行動はかなりの程度自由である。

諸事情を考慮してそこから自分で考えて、決断を下す。『ほら、俺アホやん？ 中卒やん？ せやから考えても分かれへんねん』などとおどけて見せるが、それはギャグで笑いが欲しいだけ。実はそういう専門家の力を借りる方がいいというのが彼の判断なのである。資産家の買い物は一回で数億円は当たり前。判断能力が低い人間はビジネスはできない。彼はその超プロフェッショナルであり、実は天才的な判断能力を持っている。この本では詳しく書かないがその判断能力は人の感情を察知するEQが深く関わっている。テストで点数を取ることができるのは、たいていはIQの方だ。数学の点数がいいとか、化学や物理が得意というのはIQが高い人も多い。

これに対してEQというのは感情指数である。一歩世の中に出れば、不確定要素が多いだけではない。その世界はビジネスの世界であっても、人が有機的に関わった結果構築されている世界だ。その世界ではIQよりもEQの方が判断能力に深く関わる。

ここまで詳しく書いたのにはもう一つ理由がある。慶應対策本でなければ、こんなことは書かなかったが、これは慶應本だから話しておこう。小論文は唯一このEQが極めて重要な試験だということ。

小論文試験は、読み手の感情を察知して、その感情から逆算して文章を設計していかなければなら

らない試験である。前述の大富豪の思考状態を私はじかに話をして散々質問して分析させてもらったが、完全に感情ベースで思考していることがある。しかもそのスピードが速い。そして的確である。人と人との係わり合いの中でコミュニケーション能力、そのコミュニケーション能力をベースにした思考基礎体力のようなものをまざまざと見せ付けられた。これはマークシートエリートには逆立ちしても真似ができないことである。

共感設計理論に基づく小論文指導こそが私が行っている唯一の画期的な小論文指導と言えるかもしれない。本書の執筆協力をしてくれている吉田さんも、この私の小論文指導の理論を使って合格した一人だ。動画を再生したら、『小論文は読み手によって受け方が違う』と話をしているが、これも極めて優秀な判断。ぜひ参考にしてみて欲しい。彼女は少なくとも大学生に質問をしたりはしなかった。私にメールを送ってきたのである。

ポイント 星のことは占星術師に聞け

次に失敗パターン2について話そう。

失敗パターン2 良くない指導者に教えてもらうこと

そうか、分かった！ 詳しい人に聞けばいいんだな。と考えて、よく分からない宗教に入信する

ように、ついていってしまっているが、これはこれでねずみの集団自殺のように自滅していく。予備校等の業者の中には、宣伝文句がいい加減でウソだらけだけで指導はそこその業者から、宣伝もハチャメチャだけど、指導そのものも、完全に実態のないいい加減なことをやっているところもある。そういうところの指導者が東大卒だったりすることもあり、始末が悪い。

ではどこがまずくてどこがまずくないのかは、本には書けない。だから私は言えないが、一つだけ対策がある。それは考えるということ。理論的に論理的に考えてみるのが大切だ。例えば目標達成論に書いた、成長の原理のように一つ一つ論理的に考えて本当なのかどうかを考えるということ。

ただ……多くの場合、考えるための材料が圧倒的に足りないか、あるいは、考え方がまずい（先ほど述べたように、表面的にだけ考える）ことによって間違った結論が導かれる。そういうことがどうやら多いらしい。それを受験生と話をしていて、よく感じる。

そして多くの場合受験生は、誰を信じるのか？ というように、宗教的に諸理論を信仰するしかなくなる。そういう事情を知ってか知らずか、ボクを信じてくれて感謝します！ みたいな宣伝文句を使ってHPで宣伝しまくって実体のない学習スキルを広めようとしている人もいるから、たちが悪い。これはどうしようもないのか。すまない。どうしようもないな……だからさせてレッスンだけしよう。正しく考えるための思考方法のレッスンだ。このレッスンはあなたの慶應合格がかかっている。真剣に考えてみて欲しい。

(問題)

次の宣伝文句の中から最高にあなたが慶應大学に合格しやすいと考える業者を選び、選んだ理由を述べなさい。

- 1、慶應合格の確率が90%を超えるという業者
- 2、慶應合格者が1年に2000人いるという業者
- 3、東京大学卒が教える慶應大学合格法という業者
- 4、カリスマが教える慶應合格法という業者
- 5、有名予備校で教えているあの有名先生が解説する慶應大学合格法の業者
- 6、慶應大学の合格最低点を上回る戦略という業者

答えをきっちり選んで欲しい。これは思考のレッスんだ。小論文の点数を引き上げる際にも重要な役割を果たす。

次のページでひとつずつ吟味してみよう。

- 1、慶應合格の確率が90%を超えるという業者

↓ ありえない。直前時期に入会する人で試験範囲を覚えていない人がいたらその時点でアウト。そもそも9割落ちる試験である。母集団をかなりの程度選抜して既に偏差値60以上の人を教えるなら可能だが、それならどこがやっても同じ(詳しくは左のQRコードの先のウェ

ブサイトに書いている)

2、慶應合格者が2000人いるという業者

↓ これだけの合格者を出すなら、不合格者ももっと多いことを見破れたかどうか。不合格者1万人！を宣伝する業者はいない

3、東京大学卒が教える慶應大学合格法という業者

↓ 東京大学と慶應大学の間には何の関係もないので論外

4、カリスマが教える慶應合格法という業者

↓ カリスマと慶應合格にも何の関係もない

5、有名予備校で教えているあの有名先生が解説する慶應大学合格法の業者

↓ 有名さと関係があるのは、資金力だとイメージできたかどうか。無関係のため論外

6、慶應大学の合格最低点を上回る戦略という業者

↓ 慶應大学の合格最低点と合格には極めて大きな関係がある

ここに書いたことは、こちらのQRコードの先のウェブサイトに詳しく書いてあるので、合格率や合格数をどう考えるべきなのか、興味がある人は読んでおいて欲しい。受験は人生で何度でもできない。あなたのたった1回か2回のチャレンジをいい加減な理論で台なしにしないように、慎重に先生を探して欲しい。



第3章

絶対に慶應大学に合格する理論

How to pass the Keio University

慶應大学合格請負人からのメッセージ

慶應大学にどうやれば合格できるのか？ 合格しにくくしている問題点を解決せよ！ それは

私が本書を執筆している理由につながっている

私が本書をなぜ執筆しているのだろうか？ その理由は、一言で言わなければならないとしたら、慶應大学の困難性を克服させるのが最も得意な人物だからである。

慶應大学が何ゆえ難関大学なのか？ それは偏差値が高いからでもないし、人気があるからというのも、十分な説明になっていない。そこでまずは実態から考えてみよう。慶應義塾の文系の学部
の配点を見てみよう。注目すべきは表の一番右の小論文の配点比率である。

（配点と科目の特性（成績の伸びやすさ）から考える慶應義塾攻略の要）

この表のどこに注目すべきだろうか？ 小論文の問題の解き方にも通じるので、資料の注目ポイントを勉強しておこう。こういう場合に注目するのは極端な部分。一番大きいとか、一番小さい部分、そうすると、誰でも気づくと思うが、英語が約半分を占めている。つまり慶應大学は英語大学
と言い換えることができる。英語ができれば合格できるし、英語ができなければ合格できない。

	英	地	数	小	合計	
法	200	100		100	400	25%
経A	200		150	70	420	16%
経B	200	150		70	420	16%
文	150	100		100	350	28%
商A	200	100	100			0%
商B	200	100		100		(実質) 0%

理系学部も実は慶應法と同じように覚えることが一番大事である。耳を疑うかもしれないが、私が医師と共同執筆した『勉強法最強化PROJECT』を読んでもらえれば納得いくと思う。医師の主張である。また同じく医師である、東大医学部卒の和田秀樹氏も話を分かりやすくするために暗記数学を提唱している。詳しい内容は上記の書籍と、参考文献を読んで理解して欲しい。本書では理数系の科目は暗記科目という前提で、医師の理論・言説を慶應的に補足する形式を取り、執筆していく。

最重要ポイント1 慶應大学は英語大学（国際大学）だということ。

そして、もう1つは現代文も古文も漢文もないという大胆な入試体制になっていること。これは慶應義塾が実学を重視する大学であることにも大きく関係している。あくまでも学ぶのは社会に価値を還元するためであるという大学の姿勢が、その目的に合致した人材像を選ぶ試験に現れていると言うこともできるだろう。

最重要ポイント2 慶應大学は、小論文（考える力）を重視していること。

数学や英語、小論文を重視するのは、海外の大学にはよくあることだが、そういう海外の学問、海外の人材選出方法に近い大学という意味もあるかもしれない。中国のように社会主義的な国になればなるほど、暗記にウェイトが置かれた人材選出方法になる。国家が力を持つ国では、資本はあくまでも国家のものという前提がある。しかし資本主義では、資本そのものが前提となって国家が成立しているような側面がある。前提が違えば幅をきかせる人材像も違ってくる。資本主義では実力主義になり、社会主義の国では、マシンのような優秀さの方が重宝される。旧帝国大学的な頭の良さはどちらかと言えば北京大のような頭の良さであり、ハーバードやケンブリッジで評価されるような頭の良さはどちらかと言えば、慶應的な評価ともいえる。英語、数学、論文の力が試されるのが特徴的だ。論文の試験を日本の大学の中でも最も評価するのは、慶應大学かもしれない。

慶應義塾の困難性（中項目）

慶應義塾の困難性とは、次の4つに集約される。

1. 英語の配点の高さ（スピード、語彙量、ニュアンス・語感レベル）
2. 暗記項目の多さ（理数系科目を含み、科目数が絞られるだけハイレベル）
3. 母集団のレベルの高さ
4. 小論文の配点の高さ（国語や古文、現代文がなくなり小論文になっているため）

右の理由のうち、3はどうしようもない。1と2は、記憶の問題である。要するには記憶できれば解決する。4は小論文の指導の質で決まる。つまり慶應大学文系の難しさとは、基本的には、記憶そのものと、小論文にある。逆に言えば、もっとも多くのことを記憶させるのが日本で、小論文の指導が日本一であれば、その人は慶應大学に合格させる力が日本一ということになるだろう。

《慶應義塾困難性のまとめ（大項目）と対策》

慶應大学の困難性は、合格に必要な記憶事項の多さと、小論文の実力の引き上げにある。逆に言えば記憶を誰よりもできて、小論文ができれば慶應に限りなく合格しやすくなる。

【対策】

慶應大学を専願するなら、高校1年から高校2年から小論文だけはやっておきたい。必要な記憶項目数を確保する期間は慶應文系の場合、高速学習で9ヶ月前後（1日10時間）である。

私はこの2点（小論文対策と記憶対策）が抜群に得意な人間だ。日本の歴史上初の、記憶サポート専門の塾である、記憶塾を立ち上げ、学習を支援する会社を経営している。クライアントには、東大OB、東大の大学院OB、弁護士になるための司法試験受験生、弁理士受験生、公認会計士受験生、税理士受験生、東大受験生、早慶受験生など、日本及び海外の難関試験、難関大学院を含む受験生をサポートして、続々と合格報告が寄せられている。それらの合格報告は、文系だけではなく、理系の国家試験も難関大学も含む。野球でホームラン王になりたかったら、ホームラン王ではなくて、ホームラン王を100人量産しているコーチの方があなたをホームラン王に成長させることができる。慶應合格に関しては『記憶量』『小論文』が2大困難性なのである。

小論文に関しては、日本最難関とも言われる慶應のSFCにバンバン合格者を出している。教え

子の小論文の成績は全国3位とか、全国約1万人中10位など、TOP0.1%まで引き上がる事例もある。

《データとの比較による仮説の検証》

次の文章は、東大合格者で慶應併願者の合格確率を記載した文章である。ちょっと読んでみよう。

東大文Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ生が併願する法・経済・商学部例年の併願成功率は法学部が約50%、60%、経済学部が約55%、85%、商学部が約80%、95%。すなわち、滑り止めにしようなというような甘い気持ちで受験すると、痛い竹藪返しを受けることになる。その上、2012年よりこれらの滑り止めに使われていたと思われるセンター利用方式が全学部で撤廃されるため、全ての受験生が慶大独自の対策が必要となってくる。ウィキペディアより引用

● 商学部	80%、95%の東大生が合格	小論文の実質配点比率0%（国語知識問題のため）
● 経済学部	55%、85%の東大生が合格	小論文の配点比率16%
● 法学部	50%、60%の東大生が合格	小論文の配点比率25%
● 文学部	データなし	小論文の配点比率28%
● SFC	データなし	小論文の配点比率50%

私が提示した困難性は2要素だが、この困難性ファクター2要素の要素比率（実質的には記憶の困難性は全てに含まれるために、小論文の困難性比率）が増えれば増えるほど、データが示すように、慶應への合格率は下がっている。東大受験生は小論文が増えるほど落ちている（もちろん東大生は日本一学力が担保された集団であることは疑いもないことは確認しておきたい）。商学部の小論文は（実質的には）ない。経済学部はあっても点数が低い。法学部は400点満点中100点のために、小論文の配点比率が比較的高い。商↓経↓法の順番で困難性の要素比率は増加しているわけだ。それに伴い、東大受験生の不合格率が上昇している。東大受験生の学力の質は担保されているため、他のデータが混じっているよりも仮説の検証はやりやすいと感じる。東京大学と京都大学は同列に見られることがあるが、慶應、早稲田の併願組みの合格率を見れば、東大受験生と京大受験生の圧倒的な力の差が分かる。ちなみに慶應理工学部は東大受験者の96%が合格している年もある。もちろん小論文はない。付け加えれば、文学部の小論文は現代文の要素が強いためデータがあっても参考にしにくいかもしれない。

慶應の法学部はその記憶の困難性の性質が東大二次試験とは異なる部分が大きいため、この数値になっていることも十分予測できる。ただし、この点を割り引いて考えても、慶應義塾の困難性は記憶作業のレベルと、小論文にあると考えて良さそうである。

さらに加えて言及しておきたい。高校での成績と大学に入学してからの全成績の間には強い相関があるのに対して、小論文の成績と大学に入学してからの全成績の間には相関が見られなかったという研究結果がある。この研究が示唆することは、分かりやすく言えば、勉強ができて小論文は書けるわけではないということである。スポーツに例えれば、砲丸投げと、短距離走のような違い

があるということだ。

慶應義塾の困難性の二大特徴の一つは、小論文にある。学力テストエリートは認めたくないかもしれないが、私も経験から、学力（英・国・数・社・理）と小論文の実力には全く相関がないどころか、マインド的な理由から逆に、学力自慢者は、小論文の点数が低い傾向にあることを痛感している。

ここでさらにポイントを加えれば、記憶の困難性と、小論文の困難性はどちらが強いのか？ ということだ。これが学部別の対策の難易を決定することになり、あなたの戦略決定の重要な判断基準となるのである。結論から言えば、今の手持ちのコマ。あなたの学力のカバー範囲のバランス（何が得意で何が不得意か）にあるということになるのだが、もう少し詳しく見ていってみよう。※東大合格実力が十分にあり、慶應を仕方なく受けている人は退屈かもしれないがご容赦いただきたい。

知識量と（慶應的）小論文の力で合格は決まる

基本的に慶應大学に限らず、試験は記憶量で決まる。例外は論文試験だけだ。地歴と法律の論述も記憶量で決まる。記憶できていれば合格で記憶できていなければ不合格というわけだ。そして、慶應大学が合格しにくい大学になっているのは、配点上小論文試験の比重が高いこと（学部によるが他の大学に比べて大きい）。なぜ慶應的とあえてここに書いているのだろうか。

慶應大学は日本の他の大学で伝統的に出題されているような小論文の問題を出題しない大学になっているためだ。これを慶應的小論文と表現した（法・文には論述力を重視した独自のスタイル

がある)。極めて質が高い良問というだけではない。本当に優秀な生徒を獲得するために、相当の知恵が絞られた問題が出題される。奇抜な小論文であり、ただ単に奇抜なだけの悪問ではない高度な小論文試験を課すのである。その極みは慶應SFCで、広義の思考力が要求される問題になっている。

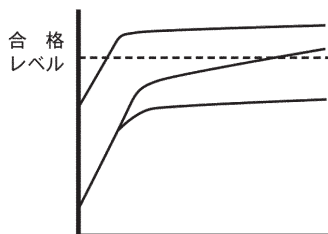
そのせいか、カコモンを扱う出版社の模範解答はSFCの場合模範になっておらず、各予備校が提出している模範解答も間違っていることが多い。レベルの高さについていけないのである。その確率はざっくり50%というところだ。市場に出回っている慶應大学SFCの解答例は良くないものが50%あると思って欲しい。こんなことは他の科目や他の大学では考えられない。間違っている箇所のは多くは出題意図の読み取り不足だ。3人の講師が3通りの解答例を出して全部おかしいなどということも過去にあった(某超有名予備校)。慶應医学部受験生は小論文もあることに注意したい。

絶対合格 (合格確率最大化) の基本戦略 商 経を中心に

絶対合格を狙う基本戦略は、知識量で突破する戦略だ。暗記さえしていれば、合格できる学部を狙うわけである。その極みは商学部と経済学部だ。もちろん、この学部は簡単というわけではない。あなたの勉強の努力が報われやすい裏切らない学部という意味だ。世間の評価も大変高い。東大併願組等の優秀な人材が集まっている学部である。

※ 絶対に合格したければ、暗記量で合格を狙う戦略をとる必要がある。
その理由を次の部分で説明しよう。

小論文の点数の伸び方



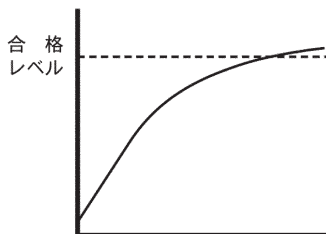
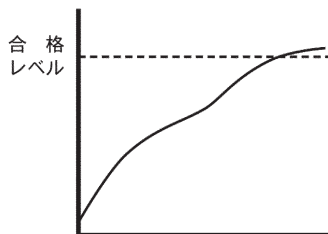
性格や考え方によって伸び方が違う。

センス、才能、性格によって合格レベルへの引き上げ期間にバラつきがある。
(3ヶ月～5年以上)

対策

肌感覚で合否が分かる人に定期的に文章を見てもらい、小論文の配点が低い学部（経）（商）を第一志望にするかどうかを判断してもらう

英語の点数の伸び方 地歴の点数の伸び方



確実に伸びる!!

各科目の実力がつくまでの時間の目安

次のようなことは、あまり言われることがないが、知っておいた方がいい考え方だ。

慶應大学はみっちり勉強すれば1年間で十分合格できる。例えば英語と地歴の組み合わせなら、だいたい9ヶ月くらいで完成する。これはゼロからの計算の場合なので、自分が十分に力がついている状態なら、6ヶ月が2ヶ月になったりすることは十分にある。例えば『青チャート』の問題は一瞬で全て即答できるのであれば、あとは『プラチカ』だけをやるなどのようにした場合、6ヶ月のプランが1〜2ヶ月になるだろう（1日に10時間かそれ以上の記憶時間が必要）。

各科目の安全合格レベルに達するのに必要な時間（慶應合格時間）

ただし、本書に掲載している学習法を基準とする

●英語	6ヶ月完成（1800時間）	しっかり組か帰国子女	900時間
●文系数学	6ヶ月完成（1800時間）	しっかり組	900時間
●理系数学	8ヶ月完成（2400時間）	しっかり組	1200時間
●地歴	3ヶ月完成（900時間）		
●小論文	（3ヶ月〜5年もしくはそれ以上）	900〜1800時間	
●物理	やり直して800時間	しっかり組で	300時間
●生物	やり直して900時間	しっかり組で	400時間

● 化学 やり直して900時間 しっかり組で400時間

※ やり直し組とは、勉強をサボっていた人が予備校を利用する場合。しっかり組とは、今までしっかり勉強してきた人が記憶作業を中心に勉強をして合格準備をする場合。

※ 覚える量は少ないが理解作業に時間がかかる理系と、覚える量は多いが、理解時間にかかる時間が少ない文系の対比関係に注目したい。

※ 記憶作業の困難性と小論文の困難性はどちらが上かは、その人のその時点の小論文の実力と素直さとセンスによる。

※ 英語は本書の勉強方法を指針としている。巷で噂の別の方法の場合は2年かかっても同じ実力に到達しない可能性があるので注意したい。

※ 今偏差値が30ですという人は、慶應の経済を受験して合格する場合は、3600時間勉強すれば合格できる。慶應の経済は小論文の配点が低いので、半分取れなくても合格や不合格にはあまり関係がない。1日10時間、できれば1日に13時間くらい勉強すれば、十分合格できる力がつく。逆に言えば、合格暗記量に達することなく合格できる可能性は、極めて低い。確率計算すれば、合格率が10%以下程度になってもおかしくない。絶対合格レベルを上回る暗記量があるのか、それとも合格レベルなのか、ギリギリ合格レベルなのか、不合格レベルなのか、絶対不合格レベルなのかが重要なのである。低偏差値から夢の合格などのいい加減な指導に惑わされないように注意したい。人生は一度きりである。

※ 地方の国立大学に進学できる、コツコツ勉強してきた優秀な諸君へぜひ伝えたいことは、数学を完璧に演習してきて、英語もしっかりやってきた君達なら、数学選択のコースで英語さえ鍛えれば慶應義塾へ合格できるということである。この場合は後に述べる牛山提唱の6アタックストラテジーを採用せずに、数学選択による東大併願組に勝つ戦略を採用しよう。私立文系専願組と戦うよりも、君たち

の場合は、東大併願組で東大に目がいつている学生に勝つ戦略の方が勝機が強い。まだ一年生なら灘、開成、ラサールの学生と並んで、地元国立と慶應併願戦略による、東大併願組との戦いが可能である。東大をメインに考えている優秀な学生よりも、国立サイドの対策を手薄にできる分、可処分資源を考えた場合、君たちの方が有利である。東大併願組はあくまでも東大合格がメインのために慶應対策が手薄になる。その分を君が英語と小論文に費やせば、地元国立と慶應のダブル合格は十分現実的な未来だと考えよう。地方の優秀な学生の一歩の弱点は、自分には無理だという刷り込みと思い込みである。頭脳は優秀だ。真面目な子も多い。周囲の人（先輩）が当たり前に東大、京大、医学部、早稲田、慶應に進学していく姿を見ていないだけである。あとはカリキュラムが若干遅いこと（中高一貫校は2年のうちにカリキュラムが終了して受験専用の戦闘モードに入る）。意識と時間の2つの差を埋めれば君達が勝てる。

110頁の表を見てもらっても分かるかと思うが、慶應を受験する際に最も気をつけなければならないのが小論文だ。3ヶ月から5年、もしくはそれ以上で合格レベルと書いてある。基本的に英語も数学も地歴も、それ以外の科目も、きっちり問題を解けるように暗記して点数が確保できないということはない。つまり勉強時間、記憶時間を投資すれば、確実に点数としてリターンがある。それに対して小論文という試験は、時間をいくら突っ込んででも点数が確実に上がるとは言いがたい科目なのである。受験アドバイスと言えば、日本では和田秀樹というくらいに有名な和田氏も東大受験攻略で、不確定要素の高い国語という科目の予想点数を低く見積もり、絶対合格を狙う際には、国語の点数をあてにし過ぎないように注意するようにアドバイスをしている。たちが悪いことに小論文という試験はこの国語以上に、やれば確実に点数が上がるというわけでもない科目なのである。

本書を読んでいる人は完全にこの部分がよく分からない手探りの状態だと思うので、いくらか話をしておこう。

小論文はフィギュアスケートに似ている

何をいきなりアホなことを言い出すんだ？　と思う人もいるかもしれないが、極めて真面目な話である。小論文の試験は、フィギュアスケートに似ている。サッカーの方がイメージしやすいかもしれないが、運動神経がいい奴は、サッカー部でもないのにやたらうまかったり、バスケも練習していないくせに、両手でドリブルできたりするのを見たことがないだろうか？　小論文もそれに似たところがあり、最初からできる奴は、めちゃくちゃにできることがある。特に環境情報学部の小論文は芸術系大学に似た側面があることも理解しておきたい。右脳の発想力重視の試験になっている。数学や英語はそんなことはありえない。勉強しなければできるはずがない。ところがバスケやサッカーは、下手したら、バスケット員よりも、運動神経がいい奴の方がうまかったりする。こんな現象が小論文にはあるのだ。フィギュアスケートが減点方式に似た採点形式になっているところ、大変小論文に似ている。全体の演技で最高点が決まり、そこからバンバン減点されていく。その表現的手法は対人関係（コミュニケーション）とも似ている。

地歴選択・慶應6アタック・ストラテジー

く牛山提唱の慶應絶対合格理論く

確実な方法を聞かれたら、経済学部と商学部を薦める理由

『大学で学びたいことを決めてから学部は選びなさい!』(正論の極み)

というお叱りの声が聞こえないかと、ヒヤヒヤしているが、学びたいことがあるだけなら何も慶應大学ではなくてもいいと思っている受験生も多いことと思う。商学部なら全国に数百の大学があり、そのどこでもいいんじゃないか。単純にあこがれて、慶應義塾で学びたいんだ! という熱い気持ちがあってもいいのではないだろうか(学問に生きる諸先生方、本当に申し訳ありません)。ただ、慶應OBの方で現在は東京大学の大学院の教授となっているある先生は、大学に進学する時点では、将来が決まっていけないのも仕方がない。だからどの学部でも、本人に迷いがあるならいいとも思っているという趣旨のことを主張されている。

AO入試で志望理由を聞かれて、私がこの学部を目指した理由は……と模範解答するのもありなんだが、『はい、ボクがこの学部を目指したのは、家から近くて両親に迷惑をかけることなく進んできて、そして私は慶應大学にあこがれていて、慶應に入学したかったからです!』と元気に話したら、俺ならこいつは正直だと感じてしまう(学部関係ないじゃんって心の中で突っ込みは入れるけどね)。AOではバンバン嘘の体験を元にして、志望理由を作れ! と教えている教育機関はたくさんある(もちろん、国立大学の教授が関わっている弊社ではそんな指導はするはずもない)。

嘘より露骨に正直な方が100倍いいではないか。

『それで、ボクは〇〇に興味がありまして、大学では〇〇を学びたいと考えています』という風に続けたら、健全にも感じる。

少なくとも看護学部を目指すのに、嘘の作り話を話し、『私の姉がガンで……病院のベッドの上で、『今までありがとう、たくさん今まで意地悪なこと言ってゴメンね』って何度も何度も言ったんです……』(ハンカチを取り出して涙をぬぐう。そして心の中で全部嘘だ。ピョンとか思っている) ↓感動してハンカチを取り出す面接担当の教授達。

とか嘘のお涙頂戴物語を話すよりは…… (本当にあるらしいから怖い)

そういうことも踏まえつつ、どうしても慶應大学がいいんだ！ 慶應に行きたいっ行きたいっとな駄々っ子のような人がいたとして、私がアドバイスするとしたら、経済学部を狙うという戦略。

その理由は、最悪のケースで小論文の力がぜんぜん伸びなかったとしても合格できるからだ。覚えれば絶対確実に合格できる学部なのである。これはつまり、勉強時間を突っ込めば確実に合格できる。それに対して法学部、文学部、SFCは、小論文の力があまり伸びないと、何年勉強しても合格できないという悲劇がありうる。特にSFCは早稲田の院卒でも浪人するくらいなのだから容易にイメージできるだろう。もう少し別の角度から言えば、時間を突っ込んでリターンがあるのかどうかということになる。地歴、英語、数学は確実にリターンがある科目である。それに対して小論文

文は時間を突っ込んだからといって確実にリターンがあるとは限らない科目なのである。

このことを踏まえた上で、しっかりと小論文を勉強しておくという戦略が重要だ。経済学部を受験するということは、基本的には、商学部、文学部、法学部、SFCと全部受験が可能である。経済を第一志望にして、他の学部を併願する。小論文の力を鍛えておけば、文、法、環、総全てに合格しやすくなる。

経済学部の小論文の配点は70点と低い。つまりは半分とつても35点、60%で42点、40%でも28点と、ほとんど差がつかない。それに対して、英語は200点と極めて配点が高い。英語ができれば合格、数学（地歴）もできたら、なお合格、という、基本的に英語の力を見る試験になっている。覚えたら合格できる学部だ（もちろん、簡単ではない）。その意味では定員の枠が広いから数学選択と考えるのではなく、地歴でも数学でも、最初から絶対合格レベルを超えることを戦略の中心にすることが大切だ。

（理系学部に関しては、実質的には慶應の……という特別な対策は存在しない）

大学や学部ごとの特殊性の傾向把握は、赤本で十分である。配点比率が他の大学に比べて異常であることは、理系学部に関してはない以上、慶應理系は……〇〇の対策が必要であるという各論は、実質的には合否に影響を与えない。本書で紹介する各科目（4類型）の学習アプローチを取りながら『勉強法最強化PROJECT』も参考にして、勉強を進めていけばそれがそのまま実質的な慶應大学絶対合格理論になる。

「数学選択か地歴選択にするかはどちらでもいいが、地歴なら幅は広がる」

母集団のレベルを考えると、東大理系選択者や東大、一橋大、京大などの猛者を相手に数学で戦うのだから、枠が広いから入りやすいとは言いがたい。灘・開成・ラサールや日比谷高校などの名門校の生徒が続々と漏れなく乗り込んでくるコースなのである。母集団のレベルと数を考えないの
は思考が停止している。

数学選択のメリット 定員枠が広い

数学選択のデメリット 商、経、SFCになる・エリート集団との対決になる

地歴選択のメリット 経、商、SFC、法、文（6学部）の併願ができる

地歴選択のデメリット 定員枠が狭い

※他の大学は一切考慮に入れていない。慶應本のため

**全体の90%合格は、難関試験は不可能だが、併願戦略で
理論上の個人レベルの合格率99%は実現できる**

初めに断っておかなければならないが、300人教えてその内の90%を難関試験に合格させるというのは、実質環境から変化させて優秀な人間を集めないとできない。いくつかの条件がなければ不可能なのである。その理由の大きなものは以下の5つ。

- 1、勉強していない人がいるから（直前から入塾など）
- 2、試験まで時間があっても勉強できない人がいるから
- 3、必ず言うことを聞かない人が一定の割合で出るため
- 4、他の予備校や塾を使っている人が90%近くいるため
- 5、慶應は、小論文試験があるので、早稲田の院卒でも不合格になることがある、変わった試験となつてゐるため（基本的にはかなり準備をしないと全員不合格になる）

上記の理由1つでも、全体の合格率は一気に数十パーセントダウンするので、心配しなくても異常な合格率はありえない。5つ考えるまでもない。ただし、個人レベルでは話は別である。合格率が1つの学部に対して80%の人は、併願をすることですべての学部に着る確率で計算すると、どこかにひっかかる確率、つまり合格率が99%くらいになる。絶対に落ちないのである。ただし、もちろんそうだよねという、8つの事項は心に留めておかなければならない。

もちろん1、直前から全部不合格になる確率99%

もちろん2、勉強できないなら、全部不合格

もちろん3、実力がつく手順でやらないなら理論上の合格率は達成されない

もちろん4、他の予備校の塾等を使ってカリキュラムが崩れるなら必ず実力がつくという理論も崩れる

もちろん5、小論文が引き上がらなければ1学部の合格率は80%にはならない

もちろん6、同様の理由で1つの科目の合格レベルが届かないと合格率は一気に50%か、それ以下に落

ちる

もちろん7、早稲田も例外ではなく、記憶量が絶対合格レベルを超えれば個人レベルでの合格確率は99パーセントを超える

もちろん8、これは個人の理論上合格確率で（受験生・生徒）全体では絶対にありえない数字である

もちろん9、小論文の実力が低いことが圧倒的に多く、最初は10～20%の合格レベルの人がほとんどである

したがって、やみくもに併願数を増やすのではなく、それぞれの科目の絶対合格レベルを少しでも上回ることに神経を集中させなければならない。不得意科目はチャンス科目ということだ。ここまでのことは併願の有効性のために述べたがあくまでも個人の話だ。全体の90%はありえないので注意して欲しい。そして1科目でも不得意な科目があると、そもそもの合格率80%などということがありえないことに注意したい。

例）英語と地歴が合格レベルを超える確率が95%でも小論文が50%の実力の場合、全体での合格レベル越え（合格最低点越え）確率は一気に50%程度になる。慶應SFC、法、文受験生は注意しておかなければならないが、そもそも合格率50%に小論文のレベルが到達している人は、圧倒的に少ない。つまり慶應文系は日本の全大学の中でも圧倒的に小論文の優秀さで生徒を選抜しているとも表現できる。東大に合格する力があっても、数学選択でなければ半分あるいはそれ以上不合格になるような大学はほとんどない。極めて特殊な大学だ。

最後にもう一度確認しておきたい。

「慶應大学は簡単ではない」

慶應大学絶対合格法というタイトルは、当然だが簡単だから……というイメージでつけているわけではない。入試問題が難しくてかつ、母集団のレベルが高いのがこの大学の特徴である。東大との併願を考えれば日本一の母集団が集う大学である。諸先輩方と、保護者の方の気持ちも考えて念のために記載しておきたい。

「慶應大学だけが特別ではなく、むしろ特殊な大学である」

本書を読むと、慶應大学は、対策が簡単だというイメージができてしまうかもしれないが、それは間違いだ。理由のひとつは右に記載したとおりであり、2つ目の理由は、小論文の比重が高いからである。世間の評価通り、大変合格しにくい大学である。絶対合格の戦略として絶対合格レベルの知識量を確保するアプローチは東大を含めて全大学共通だ。

SFC受験生は小論文が命 英数はできて当たり前

時々英語か数学が得意ならSFCを受ける！ ということを聞くが、これは間違いだ。分析力不足である。英語や数学は足切りの役割にしか実質的にはなっていない。理由は大きく3つある。

- 1、英語や数学のレベルが高い人が多く、その後に選抜するのが小論文なため。
- 2、小論文の配点が高いので、小論文で気絶するくらいに差がつくため。
- 3、小論文は英語と同じように実力がきっちり反映される試験であるため。